

## 編者前書き

本論文集は、東京大学空間情報科学研究センター（CSIS）主催のシンポジウム「自然地理教育とGIS」（2004年2月19日）において発表された論文5編と、自然地理学とGISに関する書籍の書評1編で構成されている。近年、多様な分野でGISの利用が進み、GISの専門家を養成する教育や、一般教養としてのGISの教育が重要視されている。専門家養成のためのGIS教育は、以前から大学の科目としての実習や、企業による講習会の形で実践されてきたが、我が国の事情になじんだ、系統的学習を可能とするカリキュラムの整備には未だに至っていない。一般教養としてのGIS教育については、一部の初等・中等教育の場面において意欲的な取り組みが進められているが、教育の場面で広くGISが利用されているわけではない。さらに近年、環境問題や都市問題に対処するために、市民自らが空間的事象を把握して分析する能力が必要となりつつある。したがって、生涯教育の場面においても、GISが重要な役割を果たしうる時代となった。換言すれば、単なる道具としてのGISを教育するだけでなく、地球の構成員として持つべき空間的発想を涵養するために、人生の様々なステージにおけるGIS教育が必要である。

本論文集には、地球規模の環境問題や災害への対策を議論する際に基礎となる、自然地理学におけるGISの教育に関する実践例が収録されている。具体的には、中等・高等教育や一般市民向けのGIS教育を対象に、教材作成や空間的事象の解析といった様々なGIS利用の段階に関する事例が紹介されている。本論文集は、自然地理学におけるGIS教育のあり方を模索するための話題提供を意図している。本論文集のような試みを積み重ねることにより、自然地理学におけるGISの利用が促進され、新たな世界認識が可能となることを願ってやまない。

2004年7月

高橋昭子・小口 高